



別寒辺牛

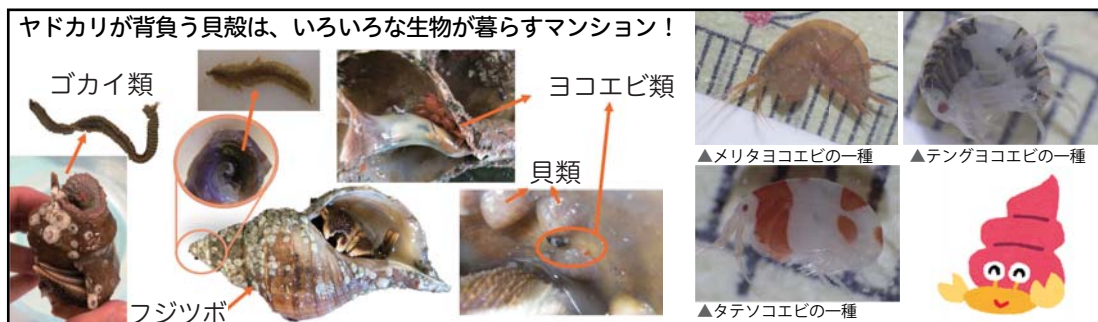
2024年4月発行
NO.44

ヤドカリと一緒にすむヨコエビ

ヤドカリは巻き貝の殻を背負って生活していることはよく知られていますが、その貝類には多くの生物が共生しています。ヨコエビもヤドカリの貝殻にすむ生物の一つです。ヨコエビは名前に『エビ』とつきますが、ダンゴムシに近い甲殻類の仲間で、全世界で約9600種が知られており、陸上から深海まで幅広い環境に生息しています。

オホーツクホンヤドカリというヤドカリの貝類にはメリタヨコエビの一種(メリタ)、テングヨコエビの一種(テング)、タテソコエビの一種(タテソコ)という3種類のヨコエビが共生していますが、これらのヨコエビの生態は全くわかりません。

そこで、3種類のヨコエビがヤドカリの貝殻のどの部分にすんでいるのか、繁殖の方法や体の形の特徴について詳しく調べました。



調査方法と結果

2022年2月から8月にかけて厚岸臨海実験所の前の海でオホーツクホンヤドカリを採取し、その貝殻からヨコエビを回収しました。その際、ヨコエビの種類・個体数・性別・成熟段階・貝殻のどの部分にいたかを記録し、体やはさみ状をした第2咬脚（ごうきゃく）とよばれる部分の大きさを計測しました。

【調査結果から判明したヨコエビ3種の違い】

種類	すむ場所	卵を抱く時期	幼体が貝殻にすみ始める時期	体・はさみの大きさ
メリタ	貝殻の上部	4月から6月	5月から	雌雄で差がない
テング	貝殻の下部	4月から6月	5月から	体長：雌が大きい はさみ：雄が大きい
タテソコ	貝殻の下部	3月から5月?	6月から	体長：雌が大きい はさみ：雄が大きい

まとめ

オホーツクホンヤドカリの貝殻に共生するヨコエビ3種は、繁殖の時期をずらすのではなく、貝殻の中ですみ分けを行うことでうまく共存している可能性があり、メリタは貝殻の中でペアを作って繁殖している可能性も明らかになりました。3種間の雌雄での体やはさみの大きさの違いの有無は、一度に抱く卵の数や交尾方法といった繁殖行動の違いを反映している可能性があり、さらに研究を進める必要があります。

北海道大学水産科学院の高尾航平氏による『厚岸湾におけるオホーツクヤドカリに生息するヨコエビ3種の生態に関する種間比較』より報告書などの本文は、水鳥観察館のホームページで見ることができます

厚岸湾におけるオホーツクホンヤドカリに生息するヨコエビ
厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励金の研究事例を紹介します

問い合わせ／水鳥観察館 ☎ 0125-5888